

Nandabe

[なんだべ]

2021.03

多様な「縁」でまちづくり

池田めぐみ氏×中村映里子氏が語る理想のみらい



人がつながればこの街はもっと面白くなる
わたしたちが考える未来はどんなまち？

まちづくりにキュンです

南陽高校×市役所「高校生が考えるまちづくりとは」

今日からできる！「SDGs」
誰一人取り残さないをみんなで実現！

つながり つどう

縁結ぶまち

南陽



多様な「縁」でまちづくり

令和3年度からはじまる第6次南陽市総合計画では、本市の将来今回、特集として、池田めぐみ氏（アスリート）、

[中村] 子どもが生まれてからは特に地球環境のことが気になります。子どもたちの未来の為にも環境問題への取り組みは真剣に考えていかなければと、私はずっと自分の美容や健康の為にオーガニックのものを増やさない、プラスチックを使わないようになります。この土地で採れたものを食べるなど、すごく小さいことがもしれないけど、それによって自分たちも地球も元気になる。そしてまたそれが南陽市にとっても良い循環になればと思います。

「つながり」とは？
——未来について思うこと

[池田] 私は、子どもには人としての力の強さというのを持ち合わせてほしいと思っています。八ヶ月の時は、これから長い人生の一一番の軸をつくるために、たくさんハイハイさせた方がいい。よく出かけたのは、シェルターなんようホール。あそこには階段がいっぱいあるじゃなくて、そこをハイハイで上ったり下りたりして、木育ひろばを最終的な楽しみのゴールにしていました。鳥帽子山にも行つたし、ドリームランドも冬は雪の煙になるから、雪の上の不安定な場所を歩きまくつてくれと（笑）。特別どこかに行つて何かするのを想像したり、このまちは、色々な所に子育てスポットが転がっているんです。

都市像を「つながり つどう 縁結ぶまち 南陽」としている。中村映里子氏（女優）のお二人に話を伺った。



夢の始まりは、たった一つの出会いから……！

[中村] 小学校卒業後の春休み、東京に行つたときにスカウトされたことが女性を目指したきっかけですね。それまでずっとクラシックバレエを習っていて、芸能界にもハレエと同じような楽しさがあるんじやないかと思いました。その半年後くらいに、家族の理解を得て、母と一緒に東京に移つて本格的に芸能のお仕事を始めたのです。池田さんはどうでしたか。

[池田] 私は、一九八四年のロサンゼルスオリンピック開会式をテレビで観て、オリエンピックっていいなと思ったのがアスリートを目指した最初のきっかけかな。それから、父が陸上をやっていた影響もあって、小学校の陸上クラブ、中学校でも陸上部に入りました。でも、中学校三年生の時に、努力しても破れない記録の壁みたいなものにぶつかったときに、顧問の先生から「フェンシングやってみないか」とスカウトされたんです。三ヶ月、半年とやっていくうちに、楽しいって言う年ですよ。その後、高校に入った、気持ちが芽生えて。日本代表に入つて、オリエンピックにチャレンジするところまで来たときに、先生に声をかけてもらつてよかったです。人の出会いが大きなかつかりました。人との出会いが、大きなかつききっかけになるんですね。

人生のヒターニングポイント

[中村] 東京で結婚生活を送つてきましたが、夫が広島出身で二人とも自然豊かなところで育つてきていたから、土に触れることができる所の方がお互い楽しく、もっとよりよく暮らせるよね。広島案



中村 映里子

雑誌モデルを経験した後、2006年から俳優として表現の場を広げる。大河ドラマ「軍師官兵衛」、「ブッカラベジ」、「カケラ」、「愛の渦」、「愛の小さな歴史」など映画やドラマで活躍中。2018年より市觀光えくば大使に就任。

——南陽のお勧め育児スポット
子育てについて思うこと

[中村] 今はインターネットで世界中がつながつて、地球の大きさは変わつてないのに、人とのつながりがすごく近く立会いも面会もできないっていう。今まで思い描いていた出産じゃなかったら、(ト)ラルな状態で生きられて、体も喜ぶん難しいから、なかなか何もできない

[池田] 今はインターネットで世界中がつながつて、毎日、いろんなことができるようになりました。コロナ禍だったので、立会いも面会もできないっていう。今まで思い描いていた出産じゃなかったら、(ト)ラルな状態で生きられて、体も喜ぶん難しいから、なかなか何もできない

池田 めぐみ
元フェンシング・女子エペ選手。日本代表として、2004年アテネ大会、2008年北京大会と二大会連続でオリンピック出場。現在は、山形県スポーツ協会のスポーツアドバイザー、南陽市教育委員会教育委員に就く等、福島で活躍している。



多様な「縁」でまちづくりのアドバイス
——まちの魅力を高める

[中村] この近くのジェラートEロさんがあつしやるというのに、私も大賛成です。せっかく熊野大社に全国からいろいろの方が集まつてくるのだからより魅力のあるところにしておいたら。私自身も、南陽市で映画を撮つたりとか、南陽市の人たちを巻き込んで芸術に取り組んでいたらしいなと思います。

[池田] ヨーロッパの各地で、車の乗り入れを制限する日を設けてつながる機会をもうつといばい交流を生み出してるように、人が顔と顔を合わせてほいと考えています。また、置賜の催し物、イベント、おまつりなどの情報の一元化を行政が仕掛けると、もうと簡単につながりができると期待しています。

「わたしたちが考える未来はどんなまち？」

人がつながれば この街はもっと面白くなる



これからまちづくりでは市民の力が欠かせない要素となる。南陽市では、三日間に高校生によるサマーアイデアキャンプや全四回の市民ワークショップを開催し、市内外の方々から南陽市の未来について考えていただいた。それらを元に策定した第6次南陽市総合計画は、市民の方々の想いやアイデアがぎっしり詰まった市民が主役の計画書となつた。ここでは、計画策定の経過や将来都市像について紹介したい。

サマーアイデア キャンプ



令和元年六月に開催したサマー・アイデア・キャンプでは、高校生を対象とした泊三日の市外に住む学生である。キャンプでは、生徒たちがグループに分かれ、市内の事業所等を訪問し、インタビューを行った。訪問先は、福祉・分野から教育・製造・観光・商業分野まで計二十三箇所。さらに、まちづくに取り組む青年会議所の方々から話を聞くなど、地域で活躍している大人たちとの出会いをつくるプログラムを設定した。高校生にとつ

二十七名で、南陽高校をはじめ置賜地域の五校の生徒が申し込んでくれた。およそ三分の一が市外に住む学生である。

生徒たちがグループに分かれ、市内の事業所等を訪問し、インタビューを行った。訪問先は、福祉・分野から教育・製造・観光・商業分野まで計二十三箇所。さらに、まちづくに取り組む青年会議所の方々から話を聞くなど、地域で活躍している大人たちとの出会いをつくるプログラムを設定した。高校生にとつ



なった方々も参加してくれた。各テーブルには、進行役として三十代の市役所の職員が参加し、市民と職員が一緒にになってまちづくりについて考えをめぐらせた。毎回雰囲気良く話し合われていく中で、各テーブルでは大量の意見が書かれた付箋が大判用紙に張り出される姿は、参加者の熱量が非常に大きなものであることを物語つていた。

意見の中では、南陽市には様々な魅力があるにもかかわらず、それらを十分に生かしきれていないこと等が多く上げられた。そうした魅力や課題、さらには今後大切なキーワードなどを整理していくことで、総合計画の七つの基本目標と基本施策は構成されている。

また、十年後の理想的なまちの姿を想像し、キャラクターを各グループで想像した際に多く出されていた共通の「縁」であった。参加者の年代や性別、住まいは違っていても同じ意識で暮らしている。

市民とみらい ワークショップ

全四回開催し、たまつくりワークショップ

参加者は五十四名。南陽市民だけでなく、置賜地域、さらには東京在住の方も参加した。社会人だけではなくサマーアイデアキャンプに参加した高校生や訪問先でお世話になった。

生徒たちがグループに分かれ、市内の事業所等を訪問し、インタビューを行った。訪問先は、福祉・分野から教育・製造・観光・商業分野まで計二十三箇所。さらに、まちづくに取り組む青年会議所の方々から話を聞くなど、地域で活躍している大人たちとの出会いをつくるプログラムを設定した。高校生にとつ

ては、三日間という限られた時間の中で聞いたことをまとめる苦労はあったものの、普段話す機会は無い大人たちからの言葉は新鮮な刺激となつたようだ。

最終日、各グループは「南陽未来新聞」という形でこのまちの未来を表現した。地域の方々へのインタビューや交流、ワークショップ等を通じて、感じたことをまとめ、アイデアを形にしたものである。そこには、小中高校生が起業したり、地域の产品や人、文化、ぬくもりを発信、ブロデュースしたりするなど、南陽市の魅力を可視化、わくわくする未来が描かれていた。

キャンプにより訪問、インタビュー、まとめて、今回参加した学生達は、きっと十年後の南陽市を牽引していく人材として成長してくれるに違いない。

めの作業を行ってい
く中で、参加した高校
生が積極的になり、主体性を
もつて取り組んでいくなど、明
らかに成長していく姿が感じと
れました。これは、地域で輝きを放
つ活動に取り組む大人たちと直
接交流できたことや運営を協力
してくれた東北芸術工科大学の
学生がグループワークを引つ
張ったことが良い効果をもたら
したものだろ。支援してい
ただいた同大学コミュニティ
デザイン学科 岡崎 工三准教授、進行を務め
た合同会社 moyai 小野寺真希さんは紙面
を借りて感謝の意を伝え
た。今回参加した学生
達は、きっと十年後の南
陽市を牽引していく人材
として成長してくれるに
違いない。



「つながり つどう 緑結ぶまち
南陽」
総合計画に掲げる将来都市像
は、市民の共通の想いを形にしたものである。
総合計画策定アドバイザーである東北芸術工科大学コミュニティ
デザイン学科の醸齋季典准教授からは、「計画を冊子にまとめる」とはもちろんだが、南陽市においても策定のプロセス自体が様々な人ととの繋がりを生み、豊かな暮らしをつくる第一歩に繋がっているはずであり、このワークショップが、一人一人が楽しみながら活動する、南陽市のつくり方があつた。市民一人一人が行動に移していくことが将来都市像の実現につながる。市民の総力を結集して、南陽市だからこそ描ける未

来をつくりあげていきたい。

（南陽市）

まちづくりに
キュンです

南陽高校 × 市役所 「高校生が考えるまちづくりとは」

県立南陽高等学校と南陽市役所は、総合計画策定が縁で地域と高校の魅力化に向けたプロジェクトを開始した。地域の方々との関わりを通して、高校生の視点で地域の魅力や課題を考える。そうしたプロセスが高校生の成長につながり、地方創生につながっている。総合計画は10年。南陽高校と市役所は、長期的な視野に立って人材育成を進めていく。



7つ+共通の目標に取り組みます

共通



一横断的目標ー新たな日常（ニューノーマル）の構築

感染症の拡大防止と社会経済活動を両立した危機に強い地域経済を構築します。これまで当たり前としていた市民生活における働き方、暮らし、学び等のあり方を変え、多様な「縁」をつないでいく新たな日常を構築します。

1



健やかで安心な暮らし・子育てを実現する

生き方、暮らし方を楽しむには、健やかで安心な暮らしが欠かせません。一人一人が、人生のそれぞれのステージにおいて、健やかに安心して生活できる地域の実現に向けて、子育て支援、健康、福祉の充実に取り組みます。

2



地域に根ざした人材を育てる

学びは未来への投資となります。子どもからお年寄りまで、一人一人が主体的な学びと交流を行うことにより、地域の中で新たな付加価値や地域文化を生み出していく人材として成長していくよう、教育、文化、スポーツの充実を図ります。

3



力強い産業の基盤をつくる

産業の成長は人を呼び込む原動力となります。高速交通網を生かしながら、市の強みである製造業や農業などの産業の育成と地域資源の磨き上げを進め、地域経渉の活性化と雇用の創出を図ります。

4



強くつながるまち・住みよいまちをつくる

住む人の命と財産を守るために、地域防災体制の充実を図るとともに、防犯・交通安全意識の向上に努めます。また、安心して生活できる住みよいまちを目指して、交通・生活インフラの整備による利便性向上を図ります。

5



自然の豊かさを守る

山や川、豊かな自然を未来につなぎます。自然環境や地域の資源を有効に活用し、自然環境の保全と資源リサイクル、省エネルギーを推進します。

6



人がつながりまちを育てる

多様な縁により、新しいものやことを起こします。人と人が、地域や世代を超えてつながる場をつくり、新しいことやものを起こす人材を増やします。安定した行財政運営により、市民の自発的な活動を支えます。

7



発信力のあるまちづくりを進める

全ての取組は情報を伝えていくことから始まります。本市の特色ある人やもの、ことの情報を伝えるべき相手にしっかりと伝え、グローバル化に対応した取組、情報発信、観光資源の活用を推進していきます。

総合計画の ここに注目！



基本理念

基本理念とは、私たちが南陽市のまちづくりを進めていく上で最も大切にしていきたい考え方です。この基本理念と基本理念に基づくコンセプトをもとに、まちづくりに取り組み、将来像の実現を目指していきます。

あらゆる世代が誇りと生きがいを持ち、安心して暮らしていくことができる社会を実現するため、ひと、もの、活動等のあらゆる地域資源をつないで、新たな価値を創造します。

【基本理念に基づくコンセプト】

- 地域を牽引する人材を育てる。
- あらゆる地域資源を活用する。
- 地域協働を推進する。
- 新たな切り口、新たな捉え方、新たな活用法を取り入れる。

将来都市像

将来都市像は、住民・地域・企業・行政が一緒にまちづくりを進めていく上で、共有できる未来の本市の姿であると言えます。

この将来都市像に基づき、長期的な視点により市民協働によるまちづくりを進めていきます。

つながり つどう 縁結ぶまち 南陽

南陽市は、かつてより東北各県を結ぶ道路、鉄道が交わり、様々な人が行き交うことで多様な交流が生まれてきた土地柄です。

人と人、まちとまち、過去と未来、心と心

それぞれの想いを持つ人々が出会い、地域や時間を越えてお互いに関係性を持つ様子を「つながり」と表現しました。そうした「つながり」を持った人達が集まり、それぞれの想いや多様な価値観が交わることにより、新たな発想や新たなこれまでに無い可能性を生み出します。そうした人達が信頼関係を築きながら一緒に活動していく姿を「つどう」と表現しました。「縁結ぶまち」は、南陽市が人やまちがつながる場所となり、多様な「つながり」、「つどう」の連続が、新しいものやことを起こしていく姿を現しています。これから南陽市は、ここに住む人、出会う人が生き方、暮らし方を楽しみ、多様な「縁」により新たな付加価値が生み出されていくまちを目指します。

第6次南陽市総合計画を詳しくご覧になりたい方は、
南陽市公式ホームページを参照ください。

QRコードからアクセスする▶

南陽市 6次総

検索



今日からできる！ 「SDGs」

誰一人取り残さないをみんなで実現！

国際連合広報センターでは、持続可能な社会のためにナマケモノにもできるアクション・ガイドを公開しています。
あなたにもできるSDGsを見つけてみませんか。

例えば

レベル
1

ソファに寝たままできること

- ・電気を節約しよう。
- ・SDGsの取組を友達にシェアしよう。
- ・オンラインで検索してみよう。
- ・オンラインでのいじめを報告しよう！

レベル
2

家に居てもできること

- ・トイレのフタを閉めよう。
- ・食べもののムダを減らそう。
- ・紙やプラスチック、ガラス、アルミをリサイクルしよう。
- ・簡易包装の品物を買おう。

＼など、レベル1からレベル4まで紹介されています。／



国連広報センター(NCTokyo)



@UNIC_Tokyo



【出典】国際連合広報センター「持続可能な社会のためにナマケモノにもできるアクション・ガイド（改訂版）」 [HP] www.unic.or.jp

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



2015年に国連サミットで、「誰一人取り残さない」社会の実現を目指し、経済、社会、環境をめぐる広範な課題を統合的に解決していくため、2030年までの「持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）」が採択されました。これは、貧困や格差の解消、教育など基本ニーズの充足、産業と技術革新、地球環境の保全などに関わる17の目標を設定し、取り組むものです。

本市においても、将来都市像及び基本目標の実現に向けて、SDGsと関連する基本施策と同じ目的意識を持って推進することにより、SDGsの実現に貢献していきます。